

青森空港脱炭素化推進計画（概要）

1. 基本的な事項

■空港の特徴

- 青森空港は青森市の南方約13kmに位置し、我が国の空港で有数の積雪量がある。
- 2023年度の空港利用状況は、着陸回数8,756回、乗降客数116.9万人、貨物取扱量640トンであった。

■空港脱炭素化に向けた方針

- 空港施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両の電動化・バイオ燃料活用・除雪車庫によるアイドリング削減、太陽光発電設備などの再エネ導入など、空港の特徴や気候風土に適した脱炭素化の取組を実施する。

2. 温室効果ガス排出量

	温室効果ガス排出量(トン/年)	
	2013年度	現状(2023年度)
空港施設	3,412.0	2,734.1
空港車両	1,437.7	977.9
空港施設・車両 計	4,849.7	3,723.0
参考)航空機	3,605.0	4,730.9
参考)空港アクセス	3,360.0	4,263.4

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

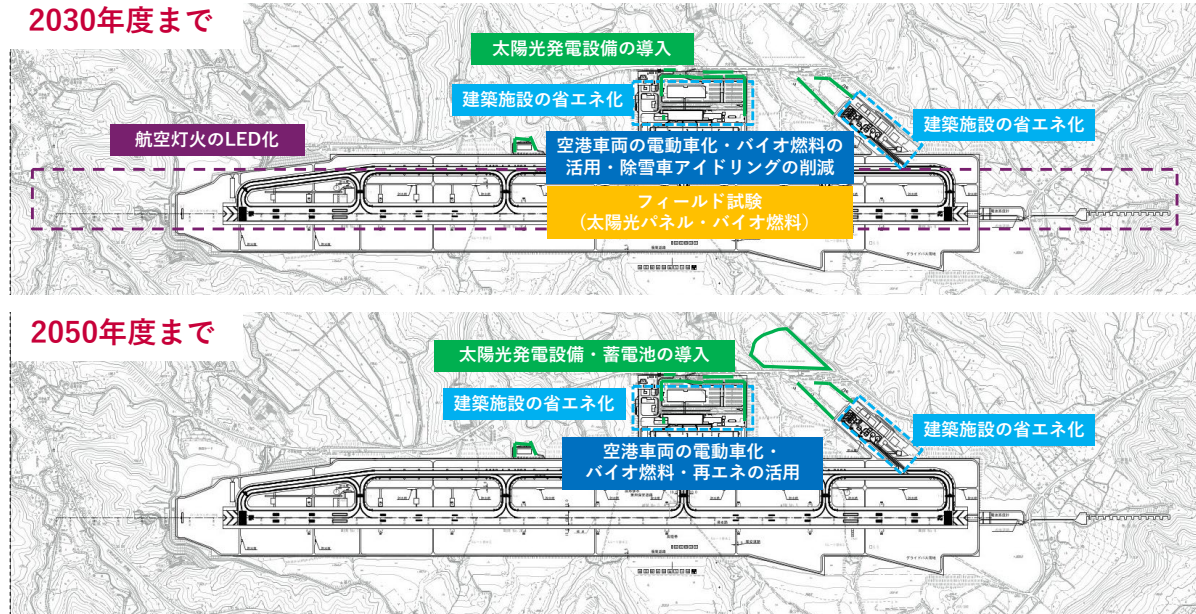
4. 主な取組

■2030年度まで

- 空港建築施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両の電動化・更新や除雪車両の脱炭素化（バイオ燃料の活用、除雪車庫の整備）、太陽光発電設備の導入、CO2フリー電力への転換や環境価値の購入に取り組む。
- 空港の積雪状況に適した太陽光発電設備や、除雪作業に支障のないバイオ燃料の混合率等について青森空港独自のフィールド実証を行う。

■2050年度まで

- 空港建築施設の省エネ化、空港車両のEV・FCV化、バイオ燃料の活用に取り組むとともに、太陽光発電設備の規模を拡大し、蓄電設備の活用を行う。
- 青森空港の気候、地形、風土にあった省エネ施策や再エネ施策(雪解け水を活用した小水力発電、地中熱等)の導入について検討する。



その他の取組：横断的な取組としてバイオ燃料等の地産地消体制の確立に向けた検討や空港で発生する刈草の有効活用について検討を行う。

排出削減のための取組

空港施設の省エネ化（建築施設の省エネ化、航空灯火のLED化）、空港車両の脱炭素化（電動車化、バイオ燃料の活用、除雪車両用車庫の整備）、再エネ導入（太陽光発電設備の導入）に取り組む

さらに追加の再エネ活用等（短期的にはCO2フリー電力への転換/調達や環境価値の購入、中長期では太陽光以外の再エネ導入や積雪に対応した太陽光パネル導入）により、削減目標を達成する

青森空港の温室効果ガス削減量

2013年度比 の削減量・ 削減量	2030年度		2050年度	
	削減量	削減率	削減量	削減率
空港施設	941.5トン/年	19.4%	1,332.7トン/年	27.5%
空港車両	549.8トン/年	11.3%	1,437.7トン/年	29.6%
再エネ導入	253.1トン/年	5.2%	965.3トン/年	19.9%
追加の再エネ活用等	486.5トン/年	10.0%	1,114.0トン/年	23.0%
削減合計	2,230.9トン/年	46.0%	4,849.7トン/年	100.0%
削減目標	2,230.9トン/年	46.0%	4,849.7トン/年	100.0%

地域特性を活かした取組

- 除雪車両のアイドリング削減
 - 屋外待機する除雪車用の車庫整備により、アイドリングに伴う温室効果ガス（年52トン相当）を削減
 - エネルギー消費正味ゼロを目指した車庫の検討（熱負荷を低減する構造、高効率設備、壁面太陽光 など）
- 積雪寒冷地の地域特性を考慮した実証
 - 除雪車両のパワー性能に影響のない最適なバイオ燃料混合率の検証
 - 豪雪にも耐えうる太陽光発電設備等の導入に向けた試験（雪質に合った架台傾斜、架台強度、可動有無、発電効率や経済性 など）
- 青森の気候、地形、風土などを活用した太陽光以外の再エネ導入促進
 - 雪解け水等の水量と調整池までの落差を活用した小水力発電の検討
 - 夏は冷たく、冬は暖かい地中熱を活用した建築施設を省エネ化や融雪での利用